

令和元年度 第5回 香美市上下水道審議会 議事録要約

日 時 令和2年1月15日(水) 13:00～

場 所 香美市役所 北庁舎 2F 会議室

出席者(委員) 9名 欠席委員 0名

事務局 只今より、令和元年度第5回香美市上下水道審議会を始めたいと思う。
それでは環境上下水道課長よりご挨拶申し上げます。

事務局 (開会挨拶)

本日はお忙しい中、令和元年度第5回香美市上下水道審議会にお集まりいただきお礼を申し上げます。

今回の審議会では前回までの審議会で作成された意見に基づいて答申案を作成したので、これについて説明させていただきたいと考えている。

また、高知工科大学の学生さんにも参加をいただいているので、若い方のご意見も後程聞いていただけたらと思う。

それでは本日もご審議の程よろしく願います。

事務局 本日はお忙しい中、お集まりいただきお礼を申し上げます。

鍵山会長が到着される間、私が司会を代行させていただきます。

後程、高知工科大学の学生の方に加わっていただいて若い方の考え方も聞かせていただきたいと思いますと考えている。

私事で恐縮だが、自分の娘も東京の工業大学で福島県いわき市の勿来地区の震災復興プロジェクトに参加させてもらって、地元の方や行政、福島県選出の国会議員で現在の森法務大臣にもご参加を頂いたり、産官学の取り組みをさせてもらっている。

全国的にも産官学の連携は非常に地域の意思決定の中でも重要な役割を持ってきている。

こういったことで坂本先生にも上下水道審議会に加わっていただいて、マネジメントの立場から知見をいただく、また、若い方の意見も市政に反映していくということで取り組みに活かしていきたいと思っている。

それでは市長の料金改定の諮問に関して答申を作成しているが、前回までの委員の意見で修正したものがこちらの資料である。

前回の会でもう一つ分かりにくかったのが市民にどう知らせるかということをお示ししてなかったので、広報の原稿案ももってきた。

紙面が2ページまでなので、委員の皆様の思いが十分書ききれてない部分があるとは思いますが、あとで検討してもらいたい。

料金改定の中でも一番の大事な部分が上水道の送水管の耐震化であるが、料金改定の今回の一番の根幹の部分である市内統一料金を一番目に書かせてもらって1番2番とさせてもらっている。

高知工科大生

香美市は市町村合併から4,000人も人口が減ったのか。移住定住政策もやって、土佐山田地区には新築が建設されている。

事務局

平成18年3月31日に合併して13年間で4,000人減少している。主な原因は人口自然減で、転入してくる人口と転出していく人口との差では香美市が四国内で1番増えている市町村ではあるものの人口減には歯止めは掛かっていない。特に山間部の減少は大きい。

高知工科大生

料金をそれぞれの水道によって変えて、応分の負担をしてもらう方法もあるが。

事務局

確かに山間地の水道の経営は厳しいものがあるが、これをすべて住民負担となると厳しいものがある。また、市長との予算ヒアリングでの席上、飲料水供給施設は水道法の適用にならない水道施設であるため管理のレベルを下げることによって経費を抑制することができるという話はしたが、現在の水道水の安全レベルは下げるべきではないという結論になった。それは我々も同じ思いではあるが、香美市内に住めば等しくサービスを受けることができるというのが市町村合併時からの理想としてある。

仮に料金の差別化を図ると地域格差により山間部の過疎化がさらに進んでしまう。

高知工科大生

学生はアパートの家賃に水道代がふくまれているパターンが多いのでそんなに水道代といってもピンとこない者もいる。

会長

今まで住まわれていたところと比べて香美市の水道料金はどうか。

高知工科大生

実家は親が払っていたので知らないが、以前に住んでいた松本市のほうが高かった気がする。

事務局

将来安定した水を届けるため耐震化を進めるためにも水道料金をあげるのか、

やはり生活直結で小修繕を繰り返しながら水道料金をなるべくあげないのがよいかどうかを支持するのか学生さんに聞いてみたい。

高知工科大生 市が住民に対して説明がきちんとできるのであれば将来を考えて投資するほうが良い。

高知工科大生 今日誘われてここにきて水道の料金のことについて聞いて、耐震化とか将来のことを考えて投資するのであれば納得はできる。

事務局 今は1週間に1度はどこかの水道管が漏水して修理に行っているのが現状だ。これから老朽化が進むとその頻度はさらにひどくなるため、そうなる前に管路を更新していく。南海トラフ巨大地震のこともあるので、その中で送水管の行が一番のメインになるのでそこに向けて取り組むために、m³あたり毎年3円、10年間の値上げを利用者をお願いしたいというのが今回の料金改定だ。

高知工科大生 他県でも人口減少や、施設の老朽化といった同じような問題があるかとは思いますが、参考になるノウハウや技術といったものはないのか。

事務局 全国には香美市と同じような問題を抱えている市町村はたくさんある。その中でも国が推奨しているのが近隣の市町村と事業を統合する広域化や民営化し、事業の効率化を図れというのを言っている。

四国の中でも香川県は水道事業の広域化と民間委託を行っているが、特徴としては吉野川の池田と早明浦ダムからの給水が8割から9割を占めており、共通する水源ということで課題も共通していることから先進的な取り組みが進んでいるが、管理を委託する民間業者が、委託の規模が大きいため1社が受注することが難しく、課題は残っている。

では高知県はどうかというと、香川県と比べて水源が豊富にあることから、各水源の水利権の問題もあって広域化が進んでいない状況だ。

今後も香川県のような広域化は難しいと考えている。

事務局 高知県は水道用に使っているダムはあまりない。香川県と実情が違う。高知県は耐震化率も全国から言えば遅れている。

会長 市が目指している今回の料金改定というものは100年の耐久性をもった長期的なものを目指しているのか、小規模な改良を加えながら値上げを抑制していくやり方なのか。

事務局 市のスタンスとしては100年安心というものを目指している。しかしながら管

の製造会社が100年の耐久性を言っているがまだ100年使ったところはないので、それを前面に市民に訴えていくところまでは、あまり大きく言えないというところもある。しかしながら送水管は水道の中でも基幹の管であるので当面10年間で更新したいという考えで進めている。

事務局

送水管の更新が終われば配水管の更新となる。

委員

ハードが100年もつということはなかなかないが、それを前提に計画を作るということは重要だ。

会長

市民に訴えていく中身として、長期的な耐久性や地震対策というのは説得力のある部分であるのでそこを重視していかなければならない。

委員

市民に理解してもらおううえで水道管の耐久性のことを訴えるより、関心のある震災対策、災害が来ても安心だという方が分かりやすいと思う。

事務局

送水管が耐震化されても排水管や宅内の水道管が割れると水が出ない。しかしなぜ送水管の更新を急ぐのかというと、市民の約6割が集中しているということもあるが、ここでしっかり配水池までは水が来るというものを作っておかないと、上水道以外の水道が断水した場合も助けることもできない。そういったことで整備が必要であるということを理解してもらわなくてはならない。

委員

答申の中身の部分1の(5)は節水型をトイレの前にも入れるべきではまた、香北や物部の人は上水道の地区がどこまでかがわからないので説明があった方が分かりやすいのでは。

会長

災害の規模によっても変わってくるが、ある程度市民に備えてもらうということも必要ではないか。

事務局

前にも説明したが耐震性貯水タンクを山田、美良布、大栃へは配置したいとは思っている。

会長

国の交付金はないか。

事務局

消防と抱き合わせでやればある。

会長

工科大生の方から意見はないか。

- 高知工科大生 市街地と山間地では一人に給水するためのコストが違うので、当然コストのかかる方は負担をしてもらいべきと考える。そこで料金の差別化を考えてみてはどうか。
- 事務局 その考え方は一理あると思う。
- 事務局 隣の大豊町は香美市より水道料金が2倍高い。
- 委員 山間地で雨水や湧き水等を利用して水道の利用を止めるとか下げるとかも考えられないか。
- 事務局 市長との予算ヒアリングで経費の節減の話の中で私が、「水道法の適用にならない飲料水供給施設の管理の水準を落とせば経費は節減できるが、そういう考え方を市長できるか」聞くと市長は「それはできない。」とのことだった。自分たちも飲料水供給施設も簡易水道と同じレベルの水道水の供給をしているものを、レベルを下げた水を供給することを地区の住民は納得できないと思うので、それをやるのはむずかしいと考える。
- それと料金についても山間地を上げて、市街地と料金の差をつけるやり方は市内での地域格差につながり、山間地は、益々人口は減るということで市長もそのやり方は容認できないと思う。
- 利用者負担という考え方ではその考え方は正しいと思うが。
- 委員 自分が山間地に住んでいたとしてもそれは受け入れられる？
- 高知工科大生 料金に地域格差があれば、それが大きければ市街地に転居するだろうが、自分の住んでいるところに愛着や誇りがあるなら、そこを動こうとはしない。そうするとそこにすんでいることを考えるとむずかしい。
- 事務局 岡ノ内という集落があって、そこは定額制で1か月の4,000円の水道料を払っているが一人暮らしや夫婦2人という家庭が多いことからほとんどの家庭が普通の水道料金から高い料金を支払っている。
- その地区を前に伺ったときに一体何人まで人がいたら水道を市が続けてくれるのかという質問があった。
- 仮に住民が一人しかいなくなっても何十万、何百万円も経費をかけて水を出すのか、やはりある程度の人口がいないと水道としての運営は難しいのである程度の人口以下になった場合には止めるのか、究極の選択を迫られている。

ただし、水道を止めるということになるとその地域には人は住めない。
そのため、水道施設にタンクを構えて水をタンク車で運ぶということも考えて
できるだけコストを抑える方向も考えなければならない状況になっている。

会長 限界集落が増えてきているのか。

事務局 物部に限ったことではなく、土佐山田、香北でも増えている。
今後こういう問題は水道も出てくる。

政策の矛盾もあって都市計画はコンパクトシティということで人を集めて市
街地を形成してそこへインフラ整備をして行政コストを下げる政策と山間地の
限界集落へ移住を進める定住政策は相反する政策を進めていることになるが、こ
こに政治がからむと山間地へ人は要らないという政策を首長はなかなか言えな
いと思う。

もっと大きな尺度で言えば、日本の中で高知県も限界集落と同じ状況で、都会
の人からすれば地方は非効率な行政コストということになって、最終的には東京、
大阪、名古屋、福岡の周辺に集まれば良いということになってしまう。

委員 住んでいるところに思い入れや愛着があるかもしれないが、まったく家を持た
ずに定住せずにホテル住まいという人も出てきた。アドレスホッパーという人も
いる。

ところで若い2人は将来への投資という意味で安心安全な施設になるのなら、
料金が高くなってもしかたがないと考えるか。

高知工科大生 良いと思う。

委員 節水とか節約とかは考えるか。

高知工科大生 無駄にどんどん水を流すとかそういうことはしないが、節水をそこまで意識し
たことはない。

高知工科大生 どういった所得層とか年齢層の方が水道をたくさん使っているか。

事務局 家族の多い家庭が、水量が多い。値上げをして一番ダメージがある。

高知工科大生 逆に言えばダメージが少ないのは一人暮らしの人か。ならそこを高負担にして
はどうか。

事務局 香美市は田舎の割に単身世帯が多い。学生や高齢者が多いのが特徴で所得が低いため、ここを高負担にすると生活に影響が出てくる。

村瀬さん野口さん 所要のため退席

会長 若い方の感覚で意見を言ってもらって良かったと思う。

事務局 改めて答申案の中身について話を戻したいと思う。大石委員に指摘を頂いた部分以外にあるか。

委員 会長の言う何十年か後を見据えてということを書けないか。

事務局 2の(1)へ付け足す。

会長 2の(1)の3割を30円へ直した方が混乱しないのではないか。

事務局 直すようにする。

委員 30円の値上げと10年間の経過措置がこんがらがって単価30円毎年上がると誤解されるのではないか。

事務局 2と3をくっつける。
「料金改定については上下水道ともに1㎡あたりの単価を30円値上げすることが妥当であると考え。
ただし、市民生活への影響を考慮し10年間で段階的に引き上げるものとする。理由としては」に変える。

会長 地震も含めたあらゆる災害への備えを値上げの理由以外のところへ盛り込むではどうか。

事務局 3を作って盛り込む。

委員 耐震性の貯水タンクは私の友達に聞いてもそれは絶対必要という話だった。

事務局 山田、美良布、大柝の旧町村の中心地には耐震性貯水タンクを設置したい思いはあるが、簡水はかなりの赤字であることから、設置する場合は多額の一般会計からの繰入金を必要とするため現時点でいつごろできるという目安は立たない

が、上水道は送水管の事業が終わるあるいは予算の見合いにはなるが何年か後にはできるのではないかと思う。

ただし、上水道も水源地の事業で貯金が少なくなっているため、いろいろやるにしても蓄えが必要だ。

会長

東日本大震災のような被害が水道施設にあった場合、ここで議論されている値上げでは対応できないため、その場合の負担をお願いするというようなことは書けないか。

事務局

東日本大震災が起こってその復旧費用が足りないのですぐに水道料金を値上げというのはほとんどないと思う。住民も家を失ったり、家族を失ったり、働く場所を失っている中で料金を上げるというのは、政治家はできないのではないか。

また、被災した方が避難した市町村ではそういった方を対象にして水道料金を減免しているところも多くある。

ここでは「5 健全な経営に努め、常に見直しを行うこと。」しか書けないと思う。

会長

次は広報の原稿の中身だが。

委員

料金改定をしばらくしていないということをいれたらどうか。

事務局

入れたいと思う。

会長

どの程度の値上げが必要ですかと改定後の料金は重なる部分があるので、改定後の料金は自分の料金に当てはまらない場合も多いと思うので削除しては。

事務局

そのようにする。

会長

次の議題で簡易水道の統合について恒石工務班長からお願いしたい。

事務局

岡ノ内簡易水道の取水地の上方に作業道が設置されることとなり、このままでは濁水が発生することから取水地の変更とろ過設備を追加する必要がある。同様に別府も山林荒廃のため取水地の変更が必要だが、岡ノ内、別府ともに給水人口が101人以下ということで簡易水道の認可基準の人口を満たさない、また、50人以下ということで飲料水供給施設にもならないため、災害復旧事業の補助対象外となり、災害の多い両地区において補助が受けられなくなることを避けるため、土佐山田、香北、物部の3つの簡易水道とし、3つの地区内の水道をそれぞれ統合するよう考えている。

統合に係る経費として約 1,500 万円を見込んでいる。

給水人口が 1 万人を超えると上水道となるため 3 つの簡易水道とし、管の接続等を行わない名称のみの統合を計画している。

現在の飲料水供給施設は今後の管理方法が決定していないため、今回の統合へは含めない。

今後も人口減少が予想されることから統合を行いたいと考えている。

会長 予算や地元の合意形成はとれているか。

事務局 予算は要求している。地元への合意は名称の変更のみなのでもらうことは考えていない。

会長 水利権の問題等はないか。

事務局 施設はそのままなのでそういった問題にはならない。

会長 それでは特に問題がないということであれば統合は問題ないということになる。他に意見はないか。内容であれば次回の日程を決めて閉会したい。

次回日程調整 令和 2 年 2 月 26 日 14 時